

平成19年度 第1回 芦屋市生涯学習基本構想素案策定委員会 会議録

日 時	平成19年12月26日(月) 14:00~16:00
場 所	教育委員会室
出席者	委員長 中谷 彪 副委員長 小石 寛文 委 員 江守 易世 ・ 柴沼 元 ・ 山下 正夫 ・ 立花 暁夫 ・ 若林 敬子 ・ 寺田 緑 ・ 山田 崇雄 ・ 林 哲也 欠席委員 岡本 伸子 事務局
事務局	生涯学習課
会議の公開	公 開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 委嘱状交付
- (4) 自己紹介
- (5) 委員長、副委員長の選出  
     委員長 1名  
     副委員長 1名
- (6) 議題  
     市民アンケートについて  
     その他
- (7) その他

2 提出資料

- 資料1 生涯学習推進基本構想とは  
 資料2 生涯学習推進基本構想策定の流れ  
 資料3 「生涯学習」についての市民意識調査(案)

3 審議経過

- 開会  
 (事務局)(資料1、2説明)

(立花委員) ここでいう「生涯学習」という言葉の意味は？

(中谷委員長) 共通の認識が必要です。

(事務局 川崎次長) 生涯学習と学校教育とそれ以外と考えています。学校を卒業するまでは学校教育、卒業してからが生涯学習と考えています。中年期、壮年期、高齢期そういう方々の学習活動をサポートするものだと思います。

(立花委員) 市民にとっては「生涯学習」という言葉は分かりにくいと思います。コミスクで活動の時に分かってもらいやすくなります。「生涯学習」と聞くと「学習」というイメージが先行してしまっているように思います。

(中谷委員長) 「生涯学習」という言葉はもともとユネスコのラングランからの言葉で最初「Life education」という言葉でした。「education」とは教育を受けるという発想でしたが、「learning」(主体的に学ぶ活動)ということで「生涯学習」となりました。この時に、概念が変わりました。従来の学校教育、社会教育というものがありました。昔は、社会教育とは学校教育を終えた後のことをいい、家庭、学校、社会という概念を考えていました。しかし、人間というものは、人生全体の学習と成長発展をどう考えるかということになってきました。生涯学習とは、本来の意味からすれば赤ちゃんも入ってきます。今回はおそらく、赤ちゃんは対象にせず、学校を終えた後の活動に焦点をおいていると思います。ここをはっきりさせた方が議論しやすいかと思いません。

(若林委員) 教育基本法の改正について、説明してください。

(川崎次長) 「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」教育基本法 第3条に書いてある生涯学習の理念です。

(中谷委員長) 生涯学習という概念は昔の教育基本法にもあったかと思えます。教育とはあらゆる機会、あらゆる場所にということが書かれていました。また、教育基本法 第7条「家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。」と書かれていました。生涯学習という概念は分け方が違ってきたので新しく規定が入ったと解釈しています。また、前回の計画冊子を読んでいないのですが、これを見ていると昔の社会教育を視野に入れていると思います。「ライフロング」というと学校教育も入ってくるのでかなり広域の問題になってきます。概念規定は重要な問題ですので、次回に市の考えも聞きたいと思っています。

(立花委員) コミスクの活動は、学校教育以外の時間を使って、地域住民が活動しています。大きくいうと生涯学習に入るのでしょうか。

(中谷委員長) コミスクの活動は年齢でいうと子どもも入りますが、地域でとらえると、学校と離れたところで学校教育とは区別ができるかと思えます。

(川崎次長) 漠然と考えていました。ここが入る、入らないかは考えていなかったのですが、整理させていただいて次回報告させていただいてよろしいでしょうか。

(中谷委員長) 提案ですが、学校以外の学習としてはいかがでしょうか。

(江守委員) 子ども会は、学校教育以外の時間にしている活動なので、今のご提案に賛同です。

- (山下委員) 一度前回の計画冊子を見てから、考えを同じ出発点に立ってやる方が良いのではないのでしょうか。私は生きている間は勉強だと考えております。皆さんの意見をまとめ、いろいろ意見を出した方が良いのではないのでしょうか。
- (中谷委員長) 共通の方向で議論していった方が良いと思います。ある程度の方向性が見えてきたのではないのでしょうか。学校教育を除いた分野における生涯学習といった活動ということで、とりあえず出発させていただきたいと思えます。皆さんいかがでしょうか。学校教育を除いた分野における生涯学習といった活動ということで進んでいきたいと思えます。次の議事の説明をお願いします。
- (事務局 田嶋主査)(資料3説明)
- (中谷委員長) 質疑はありませんか。
- (立花委員) すごく活動に役に立つアンケートだと思います。「生涯学習」という言葉が硬いという話があったように、アンケートに回答しようというキャッチフレーズはないのでしょうか。
- (事務局 田嶋主査) 最初のくだりに「生涯学習とは…」ということで噛み砕いた説明を入れさせていただいています。
- (立花委員) 何かインパクトのある表現があって書いてもらえるようなキャッチフレーズをないのでしょうか。
- (事務局 川崎次長) 市から出すものですのでどのくらい一般受けする言葉を出すことが可能かということもあるのですが、今の趣旨も踏まえて、検討してみます。
- (柴沼委員) 設問の内容が、教育のみになっています。生涯学習と福祉の協力関係が必要と思えます。
- (中谷委員長) 「ここでいう生涯学習とは」という言葉を入れるなどしてほしいと思えます。内容で柴沼委員のご意見を聞くとアンケートの聞いている内容が狭いというご意見かと思えます。
- (寺田委員) PTA活動は子どもの世話をしながら、結果的には、PTAの保護者自身が自分を見直す機会だと思っており、生涯学習だと思っています。そういった意識を広めていけないといけないと思っているのですが、そういった視点も入れていただきたいと思えます。
- (中谷委員長) PTA活動は保護者の生涯学習であるということですが、林委員はいかがですか、コミスクは入っているのにカレッジは入っていませんが、いかがでしょうか。
- (林委員) アンケートなのであまり広範囲になると答えにくいのではないのでしょうか。行政としてどうするのかと現状を把握したいということでよいのではないのでしょうか。家庭教育と生涯学習などももう少し具体的に整理してみたいという思いはあります。
- (小石副委員長) 文部科学省も生涯学習というとらえ方を、市民の興味を満たすということにとどまらず、市民の身につけたものを地域に活かしていくものとしています。伝える側になっていく意欲があるか、意識があるかといったところを聞いていただきたい。「地域づくり」が重要な問題になってきています。やりたくてもどうやったらいいかわからない人もいます。どの程度市民の皆さんに意識があるのか知りたい。
- (若林委員) 市は前回の平成5年の計画をどのように変えて、市政に反映させるのです

- か。副委員長の言う「生涯学習」が、これからのめざす方向かと思います。
- (林委員) 行政との関わりだけをうたうのか。具体的にいうと、コースや美術など市と全く関係ないところでやっている。自主的にやっているところに市がどこまで絡むのか。市の関わらないところで市民は多様な生涯学習を行っていると思います。
- (中谷委員長) 行政もサービスとして学習をする機会などを提供していくこともありますが、重要なのは、市民がどのように学んでいくか、学びの地域づくり、仲間づくり等をどのように育てていくかだと思います。それをどうサポートするかだと思います。行政はどのようにバックアップするかということだと思います。
- (山田委員) 行政は啓蒙とサポートに徹すればいいと思います。先ほどの話で、いいキャッチフレーズはないかと、話がありました。が、「生涯学習」という言葉には、硬さと威圧的であると思います。LLL(ライフロングラーニング)と表記しているところがあります。
- (中谷委員長) 調査の予定時期はいつなのでしょう。今、良い意見が出ましたが、意見を組み入れる時間的な余裕はありますか。
- (事務局 川崎次長) 予定では広報の2月15日号の掲載と同時期に郵送したいと考えています。そして3月中に集計等を行っていきたくて考えています。
- (事務局 松本部長) 今回貴重なご意見が出ましたので、もう一度この会を開いてやりたいと思います。2月15日は難しいと思います。次回にご意見いただきましてそれをまとめ、固めたいと考えています。もう少し時間をいただきたいと思います。
- (中谷委員長) 本日意見が出たことを踏まえていただいて、アンケートを再編成していただきたいと思います。次回そのアンケートを確認して、進めていきたいと思っています。
- (事務局 松本部長) 林委員からの行政との関わりだけかという意見がありました。が、市の総合計画の中にある計画という位置づけになっています。今回見直す背景は以前にもありましたが、教育基本法の改正もあり、今回の見直しとなっています。我々も学校教育と連携しながらやっていかなければならないと思っております。
- (中谷委員長) 若林委員が心配されていたが、いい意見を出せば反映されると思います。
- (立花委員) 行政にはいろいろ縛りがあると思いますので、この会議で出た言葉は委員会での決定ということで「生涯学習」といった難しい言葉も対市民に対しては分かりやすい言葉で表現していただきたいと思います。
- (事務局 松本部長) 基本構想では、生涯学習となっています。第3次の総合計画が来年、再来年に見直しとなります。そちらには、今回のこの生涯学習推進構想計画が反映されることになると思います。
- (中谷委員長) 第3期の総合計画を見せてもらいたいのですが。それを踏まえた方がよいのならば、総合計画も読んでくるということで。PTAの立場からの設問はどうですか。
- (寺田委員) 問2-1 「6. 育児・教育(幼児教育、教育問題、PTA活動など)としていただければ。
- (中谷委員長) 問2-1 「1. 趣味的なもの」で、なるべく考えられるものであれば

いれていきたいと思います。

(若林委員) 問2 - 1 「4.健康・スポーツ」で、ジョギング、水泳というのをあえてあげているのはどうかと思います。

(事務局 田嶋主査) 世論調査との比較もしたいと考えておりますので世論調査の設問を利用しています。

(小石副委員長) この設問の( )内はイメージをつかんでもらうものだと思います。

(中谷委員長) イメージをつかむためにも、もう少し追加した方が良いのではないのでしょうか。「コミスク活動」はなるのでしょうか。

(立花委員) コミスク活動は、「趣味」に該当すると思います。

(中谷委員長) 問4で、コミスク活動を取り上げているのは、何かあるのでしょうか。

(事務局 川崎次長) コミスク活動は市の特徴的な活動なので個別に入れていきます。

(若林委員) 問4のコミスク活動と同等にPTA活動を持ってきた方がよいのではないのでしょうか。

(寺田委員) PTA活動も本人の考え方によっていろいろあるかと思いますが。私は先ほどいった意識を持って活動をしていただきたいと思っています。アンケートでそういう意識づけができればと思います。

(林委員) 問2 - 1でいいのではないのでしょうか。

(柴沼委員) 老人クラブもいろいろ活動しております。コミスク活動があって老人クラブがないのが気になります。

(中谷委員長) 項目として追加しましょうか。カレッジをどうするのかといったことも思います。

(若林委員) 問4、5でコミスクと限定せず、コミスク、スポーツ、PTA、公民館活動と広い意味で聞いても良いかと思いますが。

(事務局 川崎次長) コミスク活動は、かなり地域に根づいている活動になります。芦屋市に特徴的なものだととらえていますので、設問としてあげております。

(立花委員) 教育委員会と関係あるのはコミスク活動で、老人会は福祉関係になります。それで分けてしまっているのはどうでしょうか。

(中谷委員長) 今の意見に賛成でして、少し広くとらえて聞いてはいかがでしょうか。

(立花委員) コミスク活動は縦断的で9つの地域の子ども会、老人クラブそれぞれふくんでおり、地域の人たちの実際の活動になります。

(中谷委員長) 前回の冊子にコミスク活動という言葉が見出しとして入っていないのでアンケートではこだわらなくてもよいのではないのでしょうか。

(事務局 田嶋主査) 前回計画40ページで「まちづくりのための生涯学習の推進」ということで、コミュニティ組織(コミュニティスクール、自治会、老人会など)と位置づけられております。そして、29ページで前回調査でコミュニティスクールの認知度を聞いておりますので、それとの比較を考えております。

(事務局 川崎次長) 問4の中にコミスク、老人クラブ、子ども会としたらいかがでしょうか。

(中谷委員長) いいと思います。寺田委員、PTA活動はどうでしょうか。

(寺田委員) 問2 - 1でいいと思います。

(中谷委員長) キャッチフレーズについてですが、硬い感じで良いのかどうかいかがでしょうか。

(山田委員) 「Lサイズの生き方をお手伝いします」はいかがでしょうか。

- (事務局 川崎次長)「Lサイズ」のLは「ライフロングラーニング」という意味ですね。そのLだということでイコール生涯学習ということですね。
- (林委員)「Lサイズ」が一般市民受けするかというと、どうでしょうか。企業人としてのOBクラスが生涯学習に注目しているかと思います。その層に対してもっと分かりやすい方がよいのではないのでしょうか。例えば「日常をより豊かにするための意識調査(生涯学習について)」とかはいかがでしょうか。
- (若林委員)どこを対象にするのかによろしいと思います。
- (林委員)そういった意味ではなく、一般受けするかと考えた時にどうかと思うということですね。
- (中谷委員長)市民がとっつきやすい、分かりやすいのはどちらかを考えるべきかと思っています。市で検討してください。そして次回決めましょう。
- (事務局 松本部長)次回までに良い案がありましたら、提案していただき、次回決定するというところでよろしいでしょうか。
- (中谷委員長)では皆さん、次回までに考えておいていただき、思いついたら事務局にご連絡いただくということでお願いします。では次回についてお願いします。
- (事務局 川崎次長)次回ですが、2月4日13:00~開催したいと思います。

閉会